

第1章

QSTV15を使う前に

この章では、QSTV15の特徴と操作ツールについて説明します。

1-1 QSTV15でできること

QSTV15は主に次のような機能を持っています。

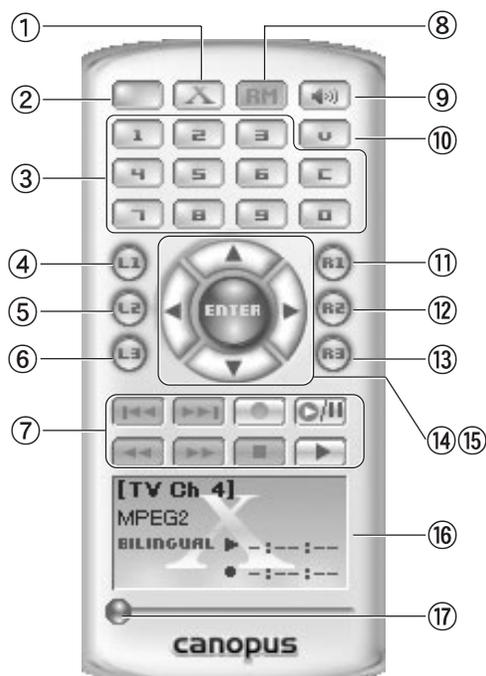
QSTV15でできること	参照ページ
テレビを見る	10ページ
ビデオを見る	20ページ
テレビやビデオ映像を録画する	21ページ
DivX形式またはWMV形式に変換する	78ページ
録画した映像を見る	36ページ
大事な場面を見逃さずに見る(タイムシフト)	15ページ
テレビ番組を録画予約する	24ページ
DVDを再生する	40ページ

※ご使用のパソコンの環境などによってはすべての機能が使用できない可能性があります。

1-2 コントロールソフト「FEATHER-X」について

「FEATHER-X」はQSTV15の操作を行うコントロールソフトです。

ここでは、FEATHER-X操作パネルの各部分の名称と機能について説明します。



①Xボタン

録画を開始し、録画終了後にDivX形式に変換します。

②POWERボタン

FEATHER-Xを終了します。

③1-0/Cボタン

チャンネルのダイレクト入力、またはプリセット入力で指定します。
ケーブルテレビのチャンネルは、頭に『C』をつけて入力します。

④L1ボタン

QSTV15の設定を行うメニューを表示します。表示画面上でマウスを右クリックしても同様のメニューが表示されます。

⑤L2ボタン

テレビ映像の静止画キャプチャを行います(ダイレクトオーバーレイを使用しない場合)。

⑥L3ボタン

使用しません。

⑦録画再生コントロールボタン

録画や再生をコントロールします(5ページ参照)。

⑧リモートモード切り替えボタン

リモートモードに切り替えます(68ページ参照)。

※オプションの『VideoGate1000』と『CRM-1』が装着されていない場合は、使用できません。

⑨ミュートボタン

音声のモニタレベルをゼロにします。

⑩入力切り替えボタン

チューナー、VIDEO、S-VIDEOの切り替えを行います。

⑪R1ボタン

「Media Library」ウィンドウを表示/非表示します(72ページ参照)。

⑫R2ボタン

DVD再生を行います(40ページ参照)。

⑬R3ボタン

フルスクリーン表示に切り替えます。スクリーン上にマウスカーソルを移動させてからダブルクリックしても、フルスクリーン表示に切り替わります。

⑭左右ボタン

チャンネルをコントロールします。ホイールスクロール機能を持ったマウスを使用しているときは、スクリーンの右半分の位置にマウスカーソルを移動させてからホイールを回転させても、チャンネルをコントロールできます。

⑮上下ボタン

音量をコントロールします。ホイールスクロール機能を持ったマウスを使用しているときは、スクリーンの左半分の位置にマウスカーソルを移動させてからホイールを回転させても、音量をコントロールできます。

⑯ステータスバー

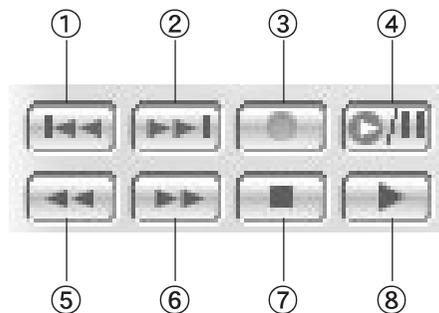
再生時間、タイトルなどの情報が表示されます。モードによって表示内容が異なります。

⑰スライダ

ビデオ再生時にスライダを移動すると、任意の位置から再生できます。

■録画再生コントロールボタンについて

録画再生ボタンは、録画や再生をコントロールします。通常のビデオデッキとほぼ同じ感覚で操作できます。



①スキップ(逆)再生ボタン

30秒間戻ります。(スキップ時間は変更できます。69ページ参照)

②スキップ再生ボタン

30秒間進みます。(スキップ時間は変更できます。69ページ参照)

③録画ボタン

録画します。録画中は「録画残り時間」メニューを表示します。

④一時停止ボタン

一時停止します。

⑤巻戻しボタン

巻戻しで再生します。

⑥早送りボタン

早送りで再生します。

⑦停止ボタン

録画・再生を停止します。

⑧再生ボタン

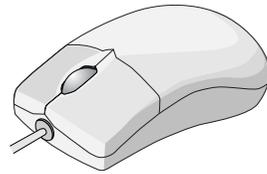
再生を開始します。



DVD再生モードの時は、ボタンの機能が変わります。
「DVDを再生する」(40ページ参照)

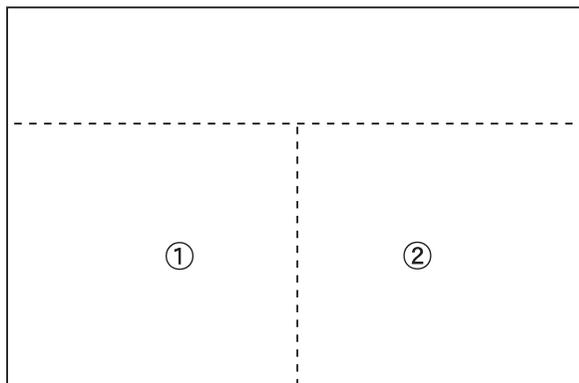


画面上での音量、チャンネルなどの操作



スクリーン上の特定の位置にマウスカーソルを移動すると、操作パネルを使わずに、音量、チャンネル、フルスクリーン表示切換などの操作を行うことができます(ご使用のマウスがホイールスクロール機能を備えている必要があります)。

■スクリーン上の設定



①音量調整

カーソルが **[Vol.]** マークになり、ホイールを回転させることで音量を調整することができます。

②チャンネル変更

カーソルが **[CH]** マークになり、ホイールを回転させることでチャンネルを変更することができます。

※画面上でダブルクリックすると、フルスクリーン表示に切り替わります。

※シングルクリックでフルスクリーン上にFEATHER-Xを表示させます。

※画面ドラッグは画面上どの位置でも行うことができます。

第2章

使ってみよう

この章では、QSTV15を使用してテレビを見たり、ビデオを録画するなどの基本的な操作について説明します。

CRM-1をお使いの方へ
P1ボタンでFEATHER-Xが起動します。

■著作権保護信号付き映像について
本製品は、著作権保護信号付き映像のキャプチャを行うことはできません。

2-1 基本操作をする

具体的な操作に入る前に、音量調整やチャンネル変更など基本的な操作について説明します。

基本操作

FEATHER-X操作パネルを使用して以下の基本操作が行えます。

- ①音量調整
- ②チャンネル変更
- ③録画

①音量調整

FEATHER-X操作パネルまたは画面上で音量を調整できます。

●FEATHER-X操作パネルで行う場合

FEATHER-X操作パネルの上下ボタンで行うことができます。



●画面上で行う場合

ホイールスクロール機能を持ったマウスでは、画面上でカーソルが **Vol.** マークに変化する部分でホイールを回転させることにより音量を調節することができます。画面上での操作領域については、6ページをご覧ください。



[スタート]メニューの[コントロールパネル]から[サウンド、音声、およびオーディオデバイス]へ進み、[関連項目]から[詳細ボリュームコントロール]をクリックすることで表示される「ボリュームコントロール」ダイアログの[ボリュームコントロール]と、FEATHER-Xの[音量調整]は連動しています。
[ボリュームコントロール]ダイアログで設定された音量を確認してからFEATHER-Xの音量を調節するようにしてください。(ボリュームコントロールでミュートにチェックが付いている場合はFEATHER-Xでもミュートされます。)

②チャンネル変更

FEATHER-X操作パネルまたは画面上でチャンネルを変更することができます。

●FEATHER-X操作パネルで行う場合

FEATHER-X操作パネルの左右ボタンで行うことができます。



●画面上で行う場合

ホイールスクロール機能を持ったマウスでは、画面上でカーソルが [CH] マークに変化する部分でホイールを回転させることによりチャンネルを変更することができます。

画面上での操作領域については、6ページをご覧ください。

③録画

FEATHER-X操作パネルによって、チューナーからのTV放送や外部ビデオ入力を録画できます（録画時間の設定などを行う場合は21ページをご覧ください）。

録画開始ボタンをクリックします。



録画を停止する場合は録画停止ボタンをクリックします。



2-2 パソコンでテレビを見る

ここではQSTV15の持つ基本的な機能を説明します。
ここで説明する機能をマスターすると次章で使用する機能をスムーズに使いこなせます。

チャンネルを設定する

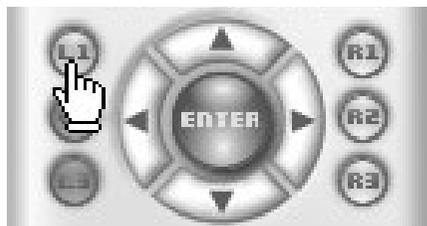
FEATHER-Xの初回起動時に地域別のプリセットを利用するか、オートスキャン機能を利用して放送があるチャンネルや放送局名などを設定します。

1 [スタート]メニューから[すべてのプログラム (Windows2000環境ではプログラム)]→[Canopus FEATHER]→[FEATHER]を選択します。

→ FEATHER-Xが起動します。

2 L1ボタンをクリックします。

→ メニューが表示されます。



3 メニューから「設定」を選択します。

→ 「FEATHER-X」ダイアログが表示されます。

X-TransCoderを表示する Background Transcode	
チャンネル	▶
ボリューム	▶
入力切替	▶
音声設定	▶
ビデオプロセッシング	▶
画面サイズ	▶
録画予約	▶
常に手前に表示 操作パネルを隠す 静止画キャプチャ	
設定...	▶
終了	

4

「TVチャンネル登録」をクリックします。



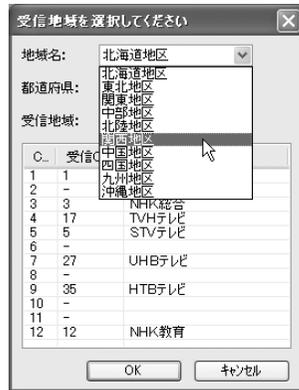
5

[地域設定による登録]ボタンをクリックします。



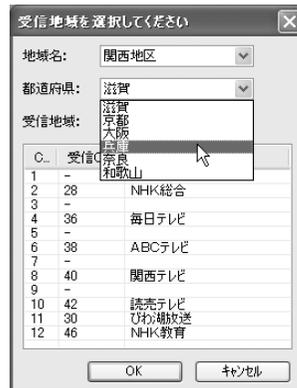
6

地域名プルダウンリストから、本製品を使用している地域名を選択します。



7

都道府県プルダウンリストから都道府県名を選択します。

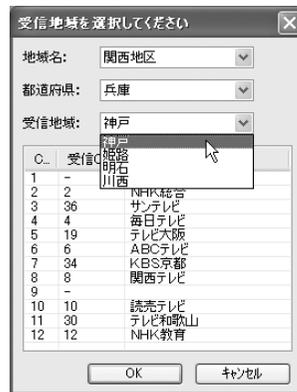


8

受信地域プルダウンリストから受信地域を選択します。

→ [OK] ボタンをクリックし、「受信地域の選択」ダイアログを閉じます。

もし、お住まいの地域名が見つからない場合や、[受信地域番組リスト]の内容が、実際に放送されているものと一部異なる場合は、できるだけ近い内容の地域を選択してください。リストの内容は、後から修正できます。



9

放送局名を確認、設定します。

※ 受信チャンネル番号は、放送局から発信される電波の周波数に直接対応したチャンネル番号のことで、新聞や雑誌のTV番組表に載っている番号と同じです。1~12(VHF)と、13~62(UHF)があります。



受信したいチャンネル番号の欄に、放送局名が正しく記入されていることと、左端に登録マーク(☑)が付いていることを確認してください。もし、その欄に放送局名や登録マーク(☑)がない場合は、その欄をクリックしてみてください。放送が受信できていれば、スクリーンにそのチャンネルの映像が表示されます。正常に受信できていることが確認できた場合は、登録と書かれたチェックボックスをクリックして登録マーク(☑)を表示させ、放送局名欄をクリックして放送局名を入力してください。

10

プリセットを確認および設定してください。

→チャンネルプロパティ一覧のボタンに、それぞれ任意の受信チャンネルを割り当てておくと、簡単に選局できます。

「数字ボタンの動作」の「ボタンに登録されたチャンネル」を選択します。[OK]ボタンをクリックすると設定を完了し、ダイアログが閉じます。



「ボタン登録されたチャンネル」とは、FEATHER-Xの1~0のボタンに任意に割り当てられたチャンネルを選択することをいいます。「チャンネル数字入力」とは、放送局が使用しているチャンネルを選択することをいいます。ケーブルテレビは、ケーブルテレビ局がチャンネルを割り当てています。



「自動受信による登録」をクリックすると、すべてのチャンネルを順にスキャンし、放送電波があるチャンネルを自動的に見つけることもできます。受信できたチャンネルの欄には、登録マーク(✓)が付きます。



テレビ番組を表示する

FEATHER-Xを起動するとテレビ番組を視聴できます。

1

FEATHER-Xを起動します。



チャンネル設定については、『チャンネルを設定する』10ページを参照してください。

2

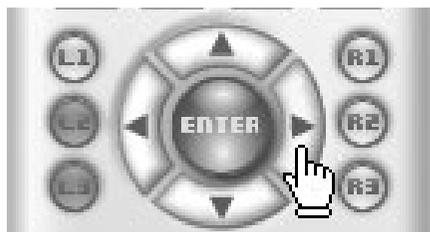
VIDEOボタンでチューナーに切り替えます。



3

左右ボタンを使用して好みのチャンネルに合わせてください。スクリーンに選択した受信チャンネルの映像が表示されます。

→テンキーによるダイレクト入力、キーボードの上下カーソルキー移動、キーボードのテンキー(0~9の数字キー)で直接チャンネル番号をキー入力することでチャンネルを変更することもできます。



大事な場面を見逃さずに見る(タイムシフト)

TVを視聴していて、ちょっと席を離れる場合などは、戻ってきたときに続きの部分から見ることができる、タイムシフト機能を使用すると便利です。ここでは、このタイムシフト機能について説明します。



タイムシフトのしくみ

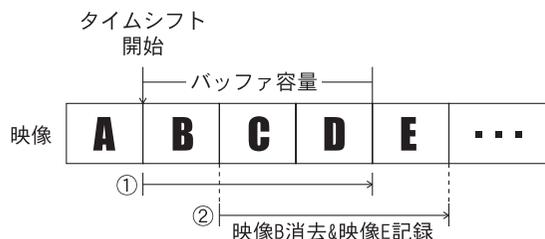
この機能には、タイムシフト中のみ映像を再生できる標準モードと、タイムシフト終了後もタイムシフト中の映像をMPEGファイルとして保存できる録画モードがあります。

標準モード

一定時間分のバッファで映像を記録していき、バッファ容量が限度にきたところで古い映像から消去を行い、新しい映像の記録を続けます。

バッファ容量内で記録されている映像は、その範囲内で自由に再生・巻戻し・早送りなどすることができます。バッファ時間は設定します。

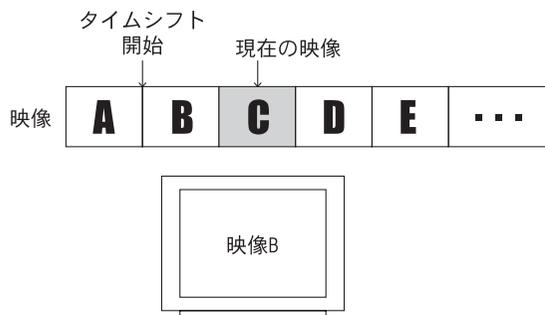
※標準モードでは、タイムシフトを終了すると、記録したすべての映像が消去されます。



- ①で映像Bから映像Dまでのバッファ容量でタイムシフトを開始した場合、バッファ容量が映像Dの終りに達したところで映像Bが消去され、
- ②その分のバッファで映像Eの記録を行います。

録画モード

タイムシフトされた映像がMPEGファイルとしてハードディスクに保存されます。タイムシフト終了後も映像を保存しておきたい場合に使用します。



通常の録画モードではスクリーン上に現在の映像が表示されますが、タイムシフトの録画モードでは、スクリーン上に表示される映像はハードディスクに既に記録された映像の再生となります。また、録画開始時に記録するファイル名を指定するのではなく、あらかじめ設定されたバッファ用のファイルに記録されます。



ここで説明している手順で、タイムシフト機能がうまく使用できない場合、録画データの設定を変更する必要があります。

『■SW-MPEG設定について』61ページの内容を参考にして、録画データの設定を変更してください。

1

FEATHER-Xを起動し、L1ボタンから「設定」を選択します。

2

左メニューから「タイムシフト」をクリックします。



3

タイムシフトモードを「標準モード」または「録画モード」から選択します。「標準モード」を選択した場合は、バッファ時間も設定します。設定完了後、[OK]ボタンをクリックします。

※ デフォルトではディスクの空き容量から自動計算されます。



「標準モード」と「録画モード」については、『タイムシフトのしくみ』15ページを参照してください。



4

タイムシフト機能を使用したいテレビチャンネルをスクリーンに表示します。



テレビ映像を表示する場合は、『テレビ番組を表示する』14ページを参照してください。



ビデオ映像を表示する場合は、『ビデオの映像を見る』20ページを参照してください。

5

ポーズボタンをクリックします。

→ 表示中の映像が停止し、タイムシフトを開始します。



6

ポーズボタンをクリックします。

→ タイムシフト機能を使用した映像の表示を再開します。タイムシフト中は、何度でもポーズ、再生を繰り返すことができます。



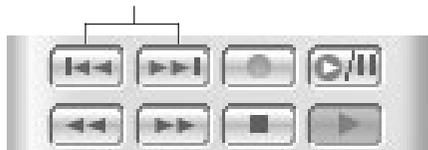
標準モードの場合には、ポーズしていた時間がバッファ時間を超えていなければ、ポーズさせた時点の続きから再生されます。バッファ時間を超えていた場合は、現在よりバッファ時間分だけ過去の場面から始まります。

録画モードの場合には、ポーズさせた時点の続きから再生されます。ドライブの残り容量がなくなるまで録画を続けることができます。



タイムシフト中に、記録された映像内で一定時間前または先へスキップして再生できます(スキップ再生)。

スキップ再生ボタン



スキップ時間を設定するには、「その他」69ページを参照してください。

7

停止ボタンをクリックします。

→ タイムシフトを終了し、通常の状態に戻ります。





スライダーを操作して、見たい場面に巻戻し/早送りすることができます。右に行くほど、現在位置に近づきます。



ビデオの映像を見る

ビデオ入力端子に接続したビデオ機器の映像を視聴できます。

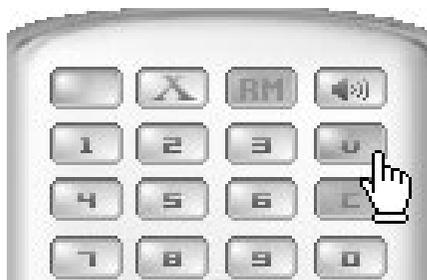
1

FEATHER-Xを起動します。

2

VIDEOボタンでビデオまたはSビデオに切り替えます。

→スクリーンにビデオの映像が表示されます。



ビデオ映像をより見やすくする機能として、ビデオ信号を調整したり、スクリーンに表示される画像を調整したりする機能があります。



ビデオ信号の調整に使用するウィンドウについては、「ビデオ入力設定について」51ページ、「Sビデオ入力設定について」52ページを参照してください。

2-3 録画する

テレビやビデオの映像を録画する

テレビ放送やビデオ入力端子に接続したビデオ機器の映像を録画することができます。ここではソフトウェアMPEGで録画する手順を説明しています。



ノイズなど映像の状態によっては録画できないものがあります。

1

録画したいテレビまたはビデオ映像をスクリーンに表示します。



テレビ映像を表示する場合は、『テレビ番組を表示する』14ページを参照してください。



ビデオ映像を表示する場合は、『ビデオの映像を見る』20ページを参照してください。

2

L1ボタンをクリックして表示されるメニューから、「設定」を選択します。

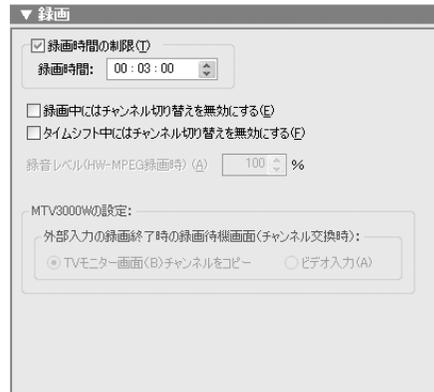
→ 「FEATHER-X」ダイアログが表示されます。

X-TransCoderを表示する Background Transcode	
チャンネル	▶
ボリューム	▶
入力切替	▶
音声設定	▶
ビデオプロセッシング	▶
画面サイズ	▶
録画予約	▶
常に手前に表示 操作パネルを隠す 静止画キャプチャ	
設定...	▶
終了	

3

左メニューから「録画」を選択します。「録画時間の制限」をチェックし、録画時間を設定します。

※ 録画時間に制限を設定しない場合は、チェックを付けないでください(チェックを外すと「録画時間」はグレーアウトし、設定できなくなります)。



4

左メニューから「SWエンコード設定」を選択します。「ソフトウェアMPEG」が選択されていることを確認し、[OK]をクリックします。



MPEGのパラメータ設定には、専門的な知識を必要とする設定も複数あります。最初は、初期設定のままで録画をし、問題が出た場合に、その部分を変更していくようにしてください。設定内容は記憶されますので、同じパラメータで録画する場合には、次回から設定する必要はありません。



MPEGパラメータの設定については、「SW-MPEG設定について」61ページを参照してください。

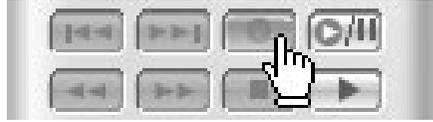


SWエンコードの設定については、「SWエンコード設定」58ページを参照してください。

5

録画開始ボタンをクリックします。

→ 録画を開始します。設定した時間が経過すると、録画を自動的に終了します。録画を中止したい場合は停止ボタンをクリックしてください。



ドライブの残り容量がなくなるまで録画を続けることができます。

2-4 録画予約する

テレビ番組を録画予約する

ここではFEATHER-XのTV番組録画予約機能について説明します。

■ FEATHER-Xのスケジュール機能を利用して録画予約する

FEATHER-Xのスケジュール機能を利用したTV番組録画予約について説明します。スケジュール機能を利用した録画予約を行う場合は、録画予約が開始される時間に、お使いのパソコンのタスクスケジューラが復帰できる状態である必要があります。また、タスクスケジューラの復帰には予約設定時にWindowsにログインしたアカウント(パスワード)が必要です。



録画予約を行う場合は、前もってパソコンの内蔵時計を正しい日付、時刻に設定しておいてください。

日付、時刻の設定は、[スタート]メニューから[設定]→[コントロールパネル]を選択し、「コントロールパネル」ウィンドウの「日付と時刻」をダブルクリックすると表示される、「日付と時刻のプロパティ」ウィンドウで行ってください。調整後は、一度タスクスケジューラを停止し、再開することをお勧めします。

録画予約で設定できるのは、プログラムストリーム、システムストリームです(付録96ページ参照)。また、予約時は、パソコンのタスクスケジューラの機能を利用しています。

1

L1ボタンをクリックして表示されるメニューから、「録画予約」→「予約追加」を選択します。

→「予約日時」ダイアログが表示されます。

2

スケジュール、開始日、開始時刻、録画時間を設定し、[次へ]ボタンをクリックします。

→「録画設定」ダイアログが表示されます。

予約日時

スケジュール:
 1回のみ 毎日 毎週

開始日: 2003年12月06日 (金曜日)

開始時刻: 14:19 AM 分

終了時刻: 14:49 AM 分

録画時間: 00:30 分

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

3

番組名、ビデオソース、チャンネル、音声多重、録画開始前の待機時間、録画マージンについて設定し、[次へ]ボタンをクリックします。

→「録画形式」ダイアログが表示されます。



4

動作、録画形式、ファイル名について設定し、[次へ]ボタンをクリックします。



※「ファイル名」の[詳細設定]ボタンをクリックすると以下の設定ができます。

・連番

同名ファイルが存在する場合、ファイル名に連番をつけます。

・日時

必ず日時をファイル名につけます。



※「登録カテゴリ」ではMedia Libraryに登録するカテゴリを選択できます。



5

「予約録画」ダイアログが表示されます。

Windowsにログインしたときと同じアカウントを必ず設定してください。

※ この設定を間違った場合は、録画予約ができません。



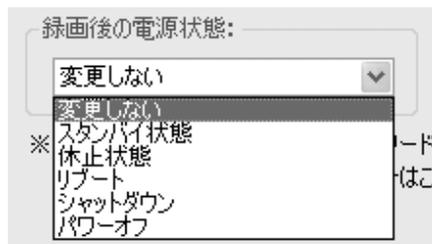
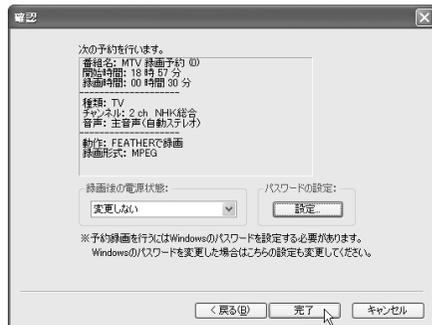
6

[完了]ボタンをクリックします。

→ 設定内容に従って、録画予約が行われます(「予約一覧」ウィンドウに登録されます)。

※ Windowsのパスワードを変更した場合は、「パスワード設定」で設定の変更を行ってください。設定の変更が行われていない場合は、録画に失敗します。

※ 録画後の電源状態を設定する場合はプルダウンリストから選択してください。



■ iEPG番組表を利用して録画予約する

iEPG番組表を利用したTV番組録画予約について説明します。この機能を利用するためには、インターネットに接続できる環境と、FEATURE設定の番組情報をあらかじめ設定しておく必要があります。録画予約を行う場合は、録画予約が開始される時間に、お使いのパソコンのタスクスケジューラが復帰できる状態である必要があります。また、タスクスケジューラの復帰には予約設定時にWindowsにログインしたアカウント(パスワード)が必要です。ここでは、番組情報「テレビ王国」を例に手順を説明します。

1

はじめて録画予約の設定を行うときは、33ページ記載の「iEPGで予約を追加できるように拡張子を関連付ける」にチェックを入れます。

2

L1ボタンをクリックして表示されるメニューから、「録画予約」→「インターネット番組表」を選択します。

→インターネットへ接続し、番組表が表示されます。地域などをお使いの環境に合わせて選択してください。

3

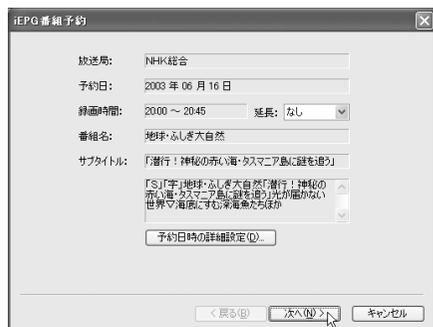
予約を行いたい番組名の下にある[予約]ボタンをクリックします。



4

番組内容を確認し、[次へ]ボタンをクリックします。

→番組終了時間を延長したい場合は、[延長]のプルダウンリストから時間を選択してください。



5

番組名、ビデオソース、チャンネル、音声多重、待機時間、録画マージンについて設定し、[次へ]ボタンをクリックします。

→「出力」ダイアログが表示されます。



6

録画形式、ファイル名について設定し、[次へ]ボタンをクリックします。

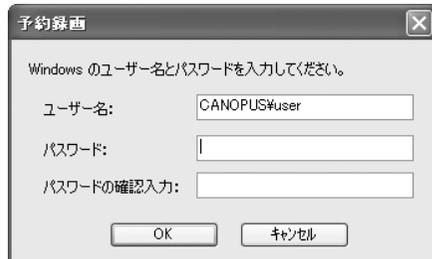


7

アカウントに関する設定ウィンドウが表示されます。

Windowsにログインした時と同じアカウントを必ず設定してください。

※ この設定を間違った場合は、録画予約できません。



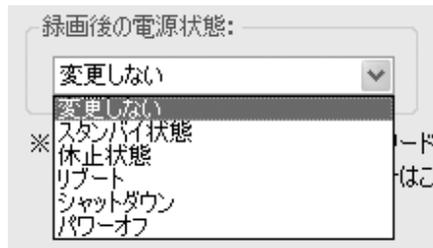
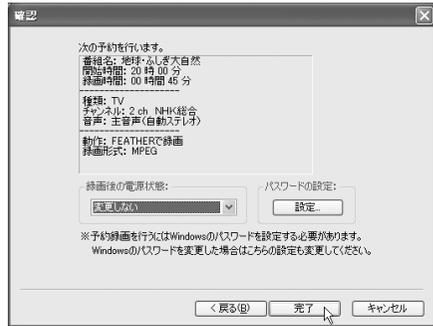
8

[完了]をクリックします。

→ 設定内容に従って、録画予約が行われます。

※ Windowsのパスワードを変更した場合は、「パスワード設定」で設定の変更を行ってください。設定の変更が行われていない場合は、録画に失敗します。

※ 録画後の電源状態を設定する場合はプルダウンリストから選択してください。



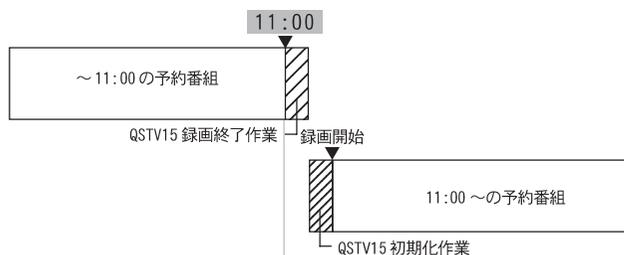


たとえば、同じ日の10:00～11:00、11:00～12:00といった2つの番組を予約した場合、警告メッセージが表示されます。これは、[待機時間]で設定された時間を予約と予約の間にとれないためです。

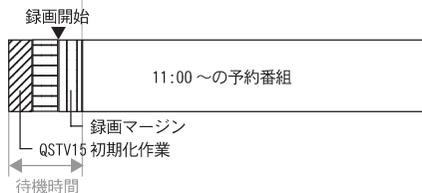
また、この場合11:00～の予約分の頭が少し切れた状態になります。これは11:00までの予約分が11:00にQSTV15の録画終了処理を行い、その後11:00～の予約分がQSTV15の初期化後に録画を開始するためです。

これを防止するためには、iEPG予約後に予約開始・終了時間などを調整する必要があります。

●録画の終了と開始時間が同じ場合の動作



●通常の動作



「予約一覧」ウィンドウ

L1ボタンをクリックして表示されるメニューから、「録画予約」→「予約一覧」を選択すると、「予約一覧」ウィンドウが表示されます。

ここではTV番組の録画、視聴予約の設定内容を確認、変更することができます。



①[追加]ボタン

新しい、録画・視聴予約データを追加します。クリックすると、設定用ウィンドウが順に（設定内容によって表示されるダイアログの種類、数は異なります）表示されますので、設定を行います。すべての設定が終了したら、[完了]ボタンをクリックします（24ページ参照）。

②[削除]ボタン

不要となった録画・視聴予約データを削除します。削除したい録画・視聴予約データを左クリックで選択し、[削除]ボタンをクリックすると、データが削除されます。

③[編集]ボタン

作成した予約データの詳細内容を確認・変更することができます。確認・変更したい録画・視聴予約データを左クリックで選択し、[編集]ボタンをクリックすると、データ内容が表示されます。データ内容は、複数のタブに分けて表示されます。

④[設定]ボタン

予約録画に関するダイアログを表示します。

⑤[インターネット番組表]ボタン

[設定]ボタンの番組情報タブで入力したホームページを表示します。

[予約録画]タブ

録画時の起動および終了時のオプション設定を行うことができます。



• 初期化マージン

タスク起動時からOSTV15初期化までのマージンを0～30秒の間で設定します。ご使用の環境でOSTV15の初期化に失敗する場合、初期化マージンを設定することをお勧めします。

• 電源状態変更

録画予約後の電源状態変更までの待機時間を10～60秒までの間で選択できます。

[番組情報]タブ

iEPGを使った番組予約機能に関する設定を行うタブです。iEPG機能を使用するには、インターネットに接続できる環境が必要です。設定項目は以下のとおりです。



- インターネット番組情報のURL

iEPG番組予約に使用する番組表があるURLを入力します。プルダウンリストには、デフォルトの設定が登録されていますので、リストから選択することもできます。[ブラウザで表示]ボタンをクリックすると、指定したURLを表示します。

- iEPGで予約を追加できるように拡張子を関連付ける

チェックすると、スケジュールに関連付けが行われ、iEPG機能が使用できるようになります。iEPG機能を使用する場合は、必ずチェックを付けてください。



デフォルトの設定に含まれていない番組表を入力した場合、番組表から提供される定義ファイルの拡張子を入力するウィンドウが表示されます。

■ CiRAgentを利用して外出先から録画予約する

遠方へ外出したときなど、iモードやパソコンからインターネットを利用し、テレビ録画を予約できます。ここでは、テレビ番組情報サイト「テレビ王国」の手順を説明します。

1

iモードなどの端末から「テレビ王国」へ接続します。

→ 「テレビ王国」のURLは「<http://www.so-net.ne.jp/tv/>」です。iモードをご使用になる場合のURLは「<http://imode.so-net.ne.jp/tv/>」です。

2

番組表から録画したい番組を選択します。

→ 予約を確認するメッセージが表示されます。

3

「はい」を選択します。

→ 「テレビ王国」のサーバーに登録されますので、予約はこれで完了です。



予約方法の詳細内容は「テレビ王国」を参照してください。



TV王国のパスワードを変更した場合、必ずCanopus CiRAgent設定で再設定してください。設定が異なる場合、予約情報が反映されません。



サーバーの予約設定待ち一覧に、録画時間が過ぎている予約が表示されている場合、それを削除してから新規の予約を行ってください。



リモート録画予約のしくみ

iモードやインターネットカフェなどの外出先からインターネットを利用して、ご自宅のパソコンにTV録画を予約することを、リモート録画予約と呼んでいます。

まず、インターネット上で録画予約した情報がテレビ王国のサーバーへ登録されます。

パソコンにインストールされているCiRAgentが、接続時間になるとインターネットに接続し、テレビ王国のサーバーに登録されている録画予約情報をダウンロードします。その後、予約完了のメールが届きます。録画予約に失敗した場合は、その通知メールが届きます。

予約した時間になると、ご自宅のパソコンが録画を開始します。



CiRAgentは、設定された接続時間のみサーバーへ接続するため、録画予約やキャンセルが実行されない場合があります。

2-5 録画した映像を見る

映像ファイルを再生する

録画予約したファイルなどの再生の手順について説明します。

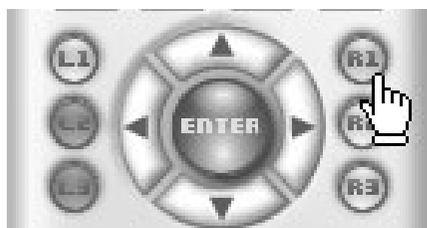
1

[スタート]メニューから[プログラム]→[CanopusFEATHER]→[FEATHER]を選択します。

2

R1ボタンをクリックします。

→ 「Media Library」ウィンドウが開きます。



3

Media Libraryから再生するファイルを選択し、再生ボタンをクリックします。

→ 再生が開始されます。

※ 再生したいファイル上でダブルクリックすることでも再生が開始されます。

※ ビデオ再生中にスライダを移動すると、任意の位置から再生できます。



Media Libraryでファイルを分類する

Media Libraryの『全てのカテゴリ』にはFEATHER-Xを使用して録画されたファイルが保存されています。録画されたファイルは、ドラッグアンドドロップにより、『スポーツ』、『ドラマ』などのカテゴリ別に分類できます。『全てのカテゴリ』上で右クリック→「新規カテゴリ」を選択すると、新たなカテゴリを作成することができます。また、録画ファイルのコメント欄をクリックすると、コメントを追加することもできます。

1

R1ボタンをクリックします。

→ 「Media Library」 ウィンドウが開きます。



2

ファイルを選択し、ダブルクリックします。

→ ファイルの再生を開始します。

3

R1ボタンをクリックします。

→ 「Media Library」 ウィンドウを閉じます。

4

再生を終了するときは停止ボタンをクリックします。

→ ファイルの再生を停止します。



Media Libraryについての詳細は、『第4章 Media Library を使おう』71ページを参照してください。

2-6 静止画をキャプチャする

静止画をキャプチャする

お気に入りの場面を静止画キャプチャし、ファイルに保存する手順を説明します（静止画キャプチャを行うには、「FEATHER-X」ダイアログの「SWエンコード設定」で「視聴時にダイレクトオーバーレイを使用する」のチェックを外す必要があります）。



「DVD再生」、および「ファイル再生」は静止画キャプチャできません。

1

L1ボタンをクリックして表示されるメニューから「設定」を選択します。

→ 「FEATHER-X」ダイアログが表示されます。

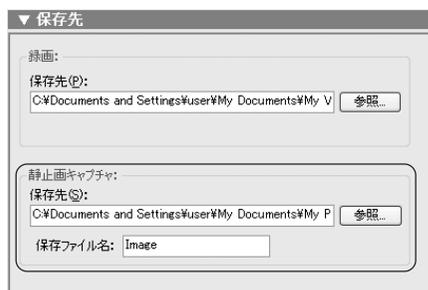
2

左メニューから「保存先」を選択します。



3

静止画の保存先、保存ファイル名を指定し、[OK]をクリックします。



4

静止画キャプチャしたいテレビまたはビデオ映像をスクリーンに表示します。



テレビ映像を表示する場合は、『テレビ番組を表示する』14ページを参照してください。

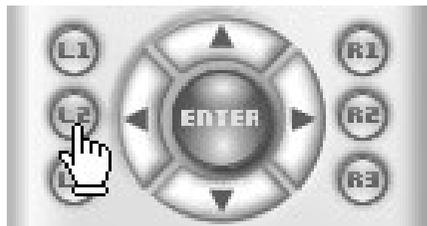


ビデオ映像を表示する場合は、『ビデオの映像を見る』20ページを参照してください。

5

お気に入りの場面でL2ボタンをクリックします。

→キャプチャされた静止画が指定した保存先に保存されます。



L1ボタンのメニューからも静止画キャプチャができます。

2-7 DVDを再生する

DVDを再生する

DVD再生モードは、市販のDVDディスクを再生するモードです。DVDをお楽しみいただくには、お使いのPCにDVDを読み取り可能なドライブが搭載されている必要があります。DVD再生モードへの切り替えは、L1ボタンをクリックして表示されるメニューから、「入力切替」からDVD再生を選択します。



■ Cボタン

ディスクの挿入/取り出しを行います。

■ R2ボタン

DVDの再生/終了を行います。

■ L1ボタン

DVDの基本的な操作を行うためのメニューが表示されます。また、オーバーレイ上で右クリックすることでも同じメニューが表示されます。



①コントロール

基本的な動作を行います。



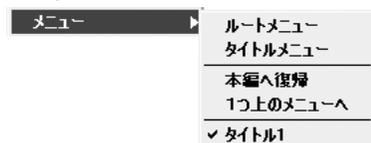
②ディスク

ディスク取り出し、自動再生の設定を行います。



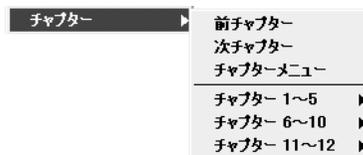
③メニュー

ルートメニューまたはタイトルメニューからお好みの場面へジャンプします。



④チャプター

複数のチャプターに分けられているディスクの場合、特定の位置へジャンプします。前チャプター、次チャプターなどから選択します (FEATHER-X操作パネルの左ボタンでも同様の操作が行えます)。



⑤オーディオ

複数の言語を選択できるディスクの場合、オーディオメニューを選択します (FEATHER-X操作パネルの右ボタンでも同様の操作が行えます)。



⑥サブピクチャ

サブピクチャトラックが用意されているディスクの場合、字幕の選択が可能となります (FEATHER-X操作パネルの右ボタンでも同様の操作が行えます)。



⑦ アングル

複数のアングルがディスクに記録されている場合、お好みのアングルを選択できます。



⑧ クローズドキャプション

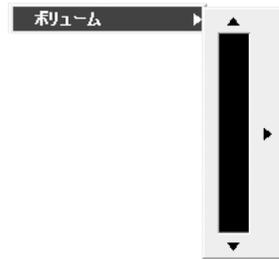
クローズドキャプション対応のDVDディスクの場合、セリフやナレーションが画面に字幕表示されます。



⑨ ボリューム

ボリュームを設定します (FEATHER-X 操作パネルの上下ボタンでも同様の操作が可能です)。

▶でデフォルト値に戻ります。



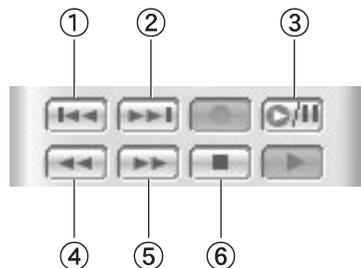
■ L3 ボタン

ルートメニューまたはタイトルメニューからお好みの場面へジャンプします。L1ボタンのメニューからも同様の操作が可能です。



■ DVD再生コントロールボタン

DVD再生コントロールボタンは、DVD再生に関するコントロールを行います。通常のDVDプレイヤーとほぼ同じように動作します。



① 前チャプターボタン

前のチャプターにジャンプします。

② 次チャプターボタン

次のチャプターにジャンプします。

③一時停止ボタン

再生を一時停止します。

⑤早送りボタン

早送り再生を行います。

④巻戻しボタン

巻戻し再生を行います。

⑥停止ボタン

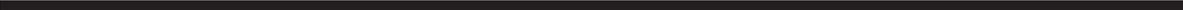
再生を停止します。



スライダーを操作することにより、お好みの場面に移動できます。



スライダー



第3章

「FEATHER-X」でいろいろな設定をしよう

この章では、QSTV15の用途に合わせた設定について説明します。

3-1 いろいろな設定を変更する

画面に関する設定をする

L1ボタンをクリックすることでOSTV15の設定を変更できます(スクリーン上で右クリックしても同様のメニューが表示されます)。また、表示されたメニューはCボタンで閉じることができます。

※ここではチューナー入力時を例に説明しています。



パネルデザインがWoodStickまたはFineStickの場合、メニューに「ミュート」が表示されます。

①	X-TransCoderを表示する
②	Background Transcode
③	チャンネル ▶
④	ボリューム ▶
⑤	入力切替 ▶
⑥	音声設定 ▶
⑦	ビデオプロセッシング ▶
⑧	画面サイズ ▶
⑨	録画予約 ▶
⑩	常に手前に表示
⑪	操作パネルを隠す
⑫	静止画キャプチャ
⑬	設定...
⑭	終了

①X-TransCoderを表示する(隠す)

メニューが「X-TransCoderを表示する」のときは、「X-TransCoder2」ウィンドウが表示されます。「X-TransCoderを隠す」のときは、「X-TransCoder2」ウィンドウがボタン化されます。

②Background Transcode

追っかけ変換を実行します。

③チャンネル

チャンネルを切り替えます。

チャンネル ▶	[2] NHK総合
	[4] 毎日テレビ
	[6] ABCテレビ
	[8] 関西テレビ
	[10] 読売テレビ
	✓ [12] NHK教育
	[19] テレビ大阪
	[30] テレビ和歌山
	[34] KBS京都
	[36] サンテレビ

④ボリューム

ボリュームを設定します。▶でデフォルト値に戻ります。



⑤入力切替

VIDEO、S-VIDEO、チューナー、DVD再生、ファイル再生から選択します。



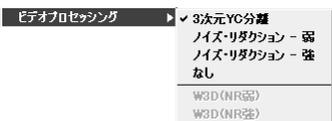
⑥音声設定

主音声、副音声、または主+副音声を設定します。また、ステレオ/モノラルの設定も行います。



⑦ビデオプロセッシング

コンポジット信号の分離とノイズフィルターの動作を選択します。



⑧画面サイズ

表示する画面サイズを選択します。



⑨録画予約

録画予約の一覧表示、追加、インターネット番組表の表示を行います。



⑩常に手前に表示

FEATHER-X を常に手前に表示します。

⑪操作パネルを隠す

操作パネルの表示 / 非表示を選択します。

⑫静止画キャプチャ

静止画をキャプチャします(リモートモードでファイル再生時およびダイレクトオーバーレイを選択していないとき)。

⑬設定

「FEATHER-X」ダイアログを表示します(49ページ参照)。

⑭終了

FEATHER-Xを終了します。

動作に関する設定をする

FEATHER-X操作パネル上で右クリックして表示されるメニューから、FEATHER-Xの動作に関する設定を変更できます。



①モニター

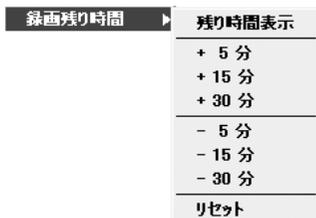
スクリーンの表示/非表示を選択します(チューナー、Sビデオ、ビデオ選択時)。

②メディアライブラリ

録画ファイルが保存されている「Media Library」ウィンドウを表示します(72ページ参照)。

③録画残り時間

録画残り時間を表示/設定します(録画中以外は選択できません)。



④パネルデザイン

FEATHER-X操作パネルのデザインを選択します。



⑤設定

「FEATHER-X」ダイアログを表示します(49ページ参照)。

⑥リピート再生

再生中の録画ファイルをリピート再生します。

⑦操作パネルを隠す

操作パネルの表示/非表示を選択します。

⑧終了

FEATHER-Xを終了します。

その他の詳細設定をする

L1ボタンを押し、「設定」を選択するとQSTV15に関する様々な設定を行うことができる「FEATHER-X」ダイアログが表示されます。

各オプションの設定後、[OK]ボタンをクリックすると設定が有効になります。また、[デフォルト]ボタンをクリックすると初期設定に、[元に戻す]ボタンをクリックすると直前に設定していた内容に戻ります。



L1ボタンの「モード選択」の設定によって、選択できる項目が異なります。



①TVチャンネル登録

地域別のプリセットを利用するか、またはオートスキャンを利用して放送があるチャンネルや放送局名などを設定します。また1から0のボタンにチャンネルを登録することができます(10ページ参照)。

②画質設定

[ビデオ入力設定]、[Sビデオ入力設定]、[チューナー入力設定]、[チャンネル表示の設定]、[表示位置設定]および[ファイル再生の設定]などで構成されています(PC画面出力のプロパティ、ファイル再生のプロパティはQSTV15では設定できません)。

③タイムシフト

タイムシフトモード時の設定を行います。

④録画

『録画時間の制限』(最長23:59:59まで)、『録画中にはチャンネル切り替えを無効にする』、『タイムシフト中にはチャンネル切り替えを無効にする』、『録音レベル』などの設定で構成されています。

⑤保存先

『録画』、『静止画キャプチャ』でファイルの保存先を設定します。

⑥SWエンコード設定

『ビデオ設定』、『オーディオをキャプチャする』などの設定で構成されています。ソフトウェアMPEG、DivX形式で録画する場合は、ここで設定を行います。

⑦SW-MPEG設定

『録画デバイス』、『ビデオ形式』、『ストリーム』、『画質』の選択などの設定によって構成されています。

⑧ビデオ/オーディオ

[SW-MPEG設定]内の[画質]設定を[マニュアル設定]に変更することにより、このウィンドウでビデオおよびオーディオに関する詳細な設定が可能になります。

⑨ファイル拡張子

[MPEG1]の『システム』、『ビデオ』または『オーディオ』の拡張子、[MPEG2]の『プログラム』、『ビデオ』または『オーディオ』の出力時の拡張子を必要に応じて変更できます。

⑩DVD再生

DVD再生の設定を行います。

⑪パネルデザイン

TV視聴時、ファイル再生、DVD再生の際のパネルデザインを変更できます。

⑫ファイル関連付け

FEATHER-Xと関連付けるファイルの拡張子を選択します。

⑬音量/ミュート

音の調節(音量/ミュート)を行うデバイスを選択します。

⑭その他

『スキップボタン設定』、『ファイル再生』、『トラブルシューティング』の設定を行います。

⑮[モード切替]ボタン

機能しません。

⑯[デフォルト]ボタン

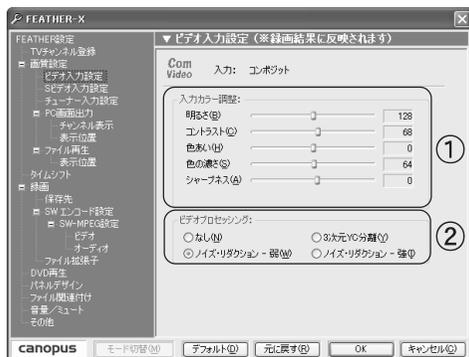
初期設定に戻します。

⑰[元に戻す]ボタン

変更前の設定に戻します。

■ビデオ入力設定について

コンポジット入力時のカラーを調整します。



①入力カラー調整

録画する映像を調整します。各スライダを左右に移動させて、適当な表示状態になるように調整します。

②ビデオプロセッシング

コンポジット信号のYC分離とノイズフィルターの動作を選択します。



この設定は録画結果に反映されますのでデフォルトでのご使用をお勧めします。

■Sビデオ入力設定について

S-VIDEOの入力時のカラーを調整します。



①入力カラー調整

録画する映像を調整します。色合い、色の濃さの各スライダを左右に移動させて、適当な表示状態になるように調整します。

②ビデオプロセッシング

ノイズフィルターの動作を選択します。



この設定は録画結果に反映されますのでデフォルトでのご使用をお勧めします。



Q: 入力はSビデオとコンポジットどちらを使えばよいのでしょうか？

A: ご使用のビデオデッキに高性能なY/C分離機能が搭載されている場合にはSビデオによる入力が効果的です。

■チューナー入力設定について

チューナー入力時のカラーを調整します。



①入力カラー調整

録画する映像を調整します。各スライダーを左右に移動させて、適当な表示状態になるように調整します。

②ビデオプロセッシング

コンポジット信号のYC分離とノイズフィルターの動作を選択します。

③ゴースト低減機能

チューナー使用時に画面にゴーストが目立つ場合にチェックします。この機能はチャンネル選択後1秒～1分で有効となります。

④受信周波数の微調整

TV放送の受信状態が悪い場合は、受信周波数を微調整すると状態が改善される場合があります。スライダーで受信状態を調整してください。調整後は[OK]ボタンをクリックすると、設定が変更されます。この調整は、チャンネルごとに設定できます。



■10Tapデジタルゴーストリデューサー

TV信号に含まれるゴースト検出信号の遅延と減衰を検出し10個の回路に設定をすることで、ゴーストを軽減し、見やすい画面を提供します。

※ゴースト除去用の信号が正常に受信できないような地域では効果が無い場合があります。

※10個以上のゴーストに関しては原理的に軽減できません。

※最初にゴースト軽減機能が働くまで1～2秒、収束までには1分程度かかります。



この設定は録画結果に反映されますのでデフォルトでのご使用をお勧めします。

■チャンネル表示について

オーバーレイ画面に表示するチャンネル番号、放送局名の設定を行います。



①チャンネル番号を表示する

「切り替え時にのみ表示する」または「常に表示する」を選択します。

②放送局名を表示する

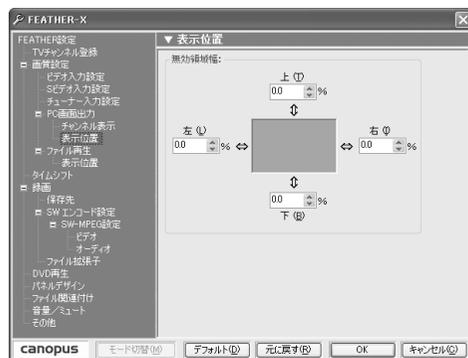
「切り替え時にのみ表示する」または「常に表示する」を選択します。

③表示位置

プルダウンリストから表示位置を選択します。

■表示位置について(PC画面)

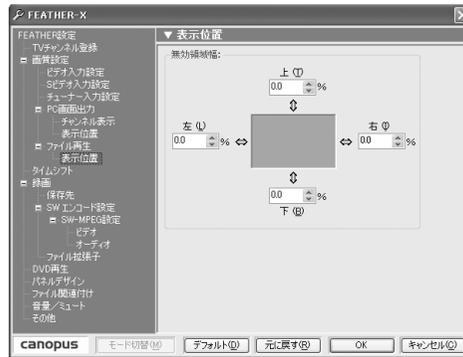
オーバーレイ画面の表示領域を変更します。



無効領域はカットされ、有効領域が拡大されることになります。

■表示位置について(ファイル再生)

オーバーレイの表示領域の変更を行います。



無効領域はカットされ、有効領域が拡大されることになります。

■ タイムシフトについて

タイムシフトの詳細内容の設定を行います。



① タイムシフトモード

タイムシフトを「標準モード」で行うか、「録画モード」で行うかを選択します。「標準モード」で行う場合、バッファ時間も設定します。

※デフォルトではディスクの空き容量から自動計算されます。

② バッファを作成する場所

タイムシフト時の、バッファデータを記録するパス(場所)を設定します。

■ 録画について

録画時間の設定を行います。



① 録画時間の制限

「録画時間の制限」をチェックした場合、録画を実行する時間を設定します。

② チャンネル切り替え制限 (録画中)

キャプチャ中にチャンネルを切り替えることを制限します。

③ チャンネル切り替え制限(タイムシフト中)

タイムシフト中にチャンネルを切り替えることを制限します。

④ MTV3000Wの設定

QSTV15では設定することができません。

■ 保存先について

録画ファイルまたは静止画の保存先を設定します。



① 録画

録画ファイルの保存場所を設定します。[参照]ボタンをクリックし、フォルダの「フォルダの参照」ダイアログから選択してください。キーボードから直接入力することもできます。

② 静止画キャプチャ

静止画の保存場所、ファイル名を指定します。

■SWエンコード設定について

エンコード設定を行います。ソフトウェアMPEG、DivX形式で録画する場合は、ここで設定を行います。



①設定登録

エンコードの設定をプリセットとして登録します。

②ビデオ設定

映像の入力元、解像度及びフレームレートを設定します。

③SWエンコード形式 (ビデオ)

ビデオのエンコード形式を設定します。「AVIコーデック」、「ソフトウェアMPEG」、および「DivX (AVI)」から選択できます。「ソフトウェアMPEG」と「DivX (AVI)」を選択した場合は[エンコード設定]ダイアログで詳細設定を行えます。

④オーディオをキャプチャする

チェックするとオーディオ信号を録画ファイルに含めます。音声の入力元、音声フォーマットを設定できます。

⑤SWエンコード形式 (オーディオ)

オーディオのエンコード形式を設定します。「AVIコーデック」、「ソフトウェアMPEG」、および「MP3 (AVI)」から選択できます。「ソフトウェアMPEG」と「MP3」を選択した場合は[エンコード設定]ダイアログで詳細設定を行えます。

⑥録画中にビデオウィンドウを表示させない

オーバーレイを非表示にしてCPUの負荷を軽減させる場合にチェックします。

⑦視聴時にダイレクトオーバーレイを使用する

ダイレクトオーバーレイを行い、CPUの負荷を軽減させる場合にチェックします。



当社が提供していないコーデックで設定された場合の動作については、サポート対象外となります。

●エンコード設定

ビデオのエンコード設定で「DivX(AVI)」を選び、[エンコード設定]をクリックすると、次のようなダイアログが表示されます。

[General]タブ



Selected Profile

[Select Profile Wizard]で選択されたプロファイルが表示されます。選択するプロファイルによって使用可能なビットレートの範囲が変わります。

Bitrate

[Variable bitrate mode]
ビットレート方式を設定します。
[Encoding bitrate]
動画のビットレートを設定します。
[Bitrate modulation]
ソースデータによってビットレートを調節できます。
([Variable bitrate mode]で Multipass, nth passを選択した場合のみ設定できます。)

Performance / Quality

変換速度と画質を設定します。スライダが右に行くほど、変換速度より画質が優先されます。

Multipass encoding files

「MV file」をチェックすると、映像の動きを記録し、マルチパスエンコード時に効率的に処理が行われます。「1st pass」時と「nth pass」時では処理が異なります。



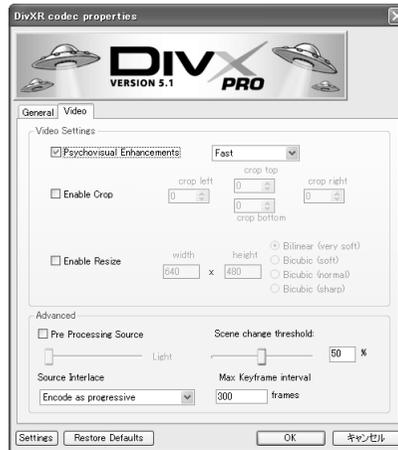
「Select Profile」で「Disable Profile」にチェックを入れると、Bitrateで「1-pass quality-based」が選択できるようになります。「1-pass qualitybased」ではQuantizerで画質を設定します。



DivX で変換を行なう際、「Feedback Window」ウィンドウが連続で表示され、非常に負荷がかかる場合があります。

「Feedback Window」を非表示にするには、[Settings] ボタンで「Settings」ダイアログを表示させ、「Disable the feedback window」にチェックを入れてください。

[Video]タブ



Video Settings

[Psychovisual Enhancements]

ソースデータの効果を補完する場合に、「Fast」または「Slow」から選択します。

[Enable Crop]

出力する動画のカットを行う場合に数値を指定します。

[Enable Resize]

元のソースデータから解像度、画質を変更して出力する場合に設定します。

Advanced

[Pre Processing Source]

チェックを入れると、スライダを移動させることにより、ソースデータのノイズやゴーストを前処理できます。

[Scene change threshold]

キーフレームの挿入間隔を、スライダの移動または数値を入力することにより指定します。

[Source Interlace]

ソースデータのインターレース解除に関する設定します。

[Max Keyframe interval]

キーフレームの間隔を入力します。

■ SW-MPEG設定について

SW-MPEGの詳細内容を設定します。



①録画デバイス

現在選択されているデバイスが表示されます。

②ビデオ形式

録画時のデータファイル形式を設定します。

MPEG1

ビデオをMPEG1形式でエンコードしたい場合に選択します。

MPEG2

ビデオをMPEG2形式でエンコードしたい場合に選択します。

Video CD

ビデオCDを作成したい場合に選択します (MPEG1の中でも、特にビデオCDの規格に準拠した形式でエンコードします)。

Super Video CD

ビデオCDの上位互換機種として制定された規格です。再生可能なプレイヤーは限られています。

③ストリーム

プログラムストリーム

オーディオ信号とビデオ信号のそれぞれをエンコードし、その結果を多重化して1つのファイルに記録します。

④画質

録画時の画質をプルダウンリストから選択します。



高画質2

画像サイズ 640x480、ビットレート 5Mbpsで録画します。

高画質1

画像サイズ 320x480、ビットレート 4Mbpsで録画します。

普通

画像サイズ 320x240、ビットレート 3Mbpsで録画します。

長時間

画像サイズ 320x240、ビットレート 2Mbpsで録画します。

マニュアル設定

画質の設定を手動で行います。「マニュアル設定」を選択した場合のみ、右側の[詳細]ボタンがクリックできるようになります。[詳細]ボタンをクリックすると「マニュアル設定」画面が開きます。実際の設定は、「マニュアル設定」画面のビデオタブ、オーディオタブで行います。これらの設定を行うにはMPEGに関する知識が必要です。通常は[高画質2]、[高画質1]、[普通]、[長時間]のいずれかを選択してください。

■ビデオについて

録画時のデータ保存内容の詳細設定を行います。



①プロファイルとレベル

録画データのプロファイルとレベルを選択します。

②ビットレート

ビデオデータのビット量を指定します。

③GOPパターン

一般的なMPEGの機能で録画データを記録する場合は「IBBP」を、すべての録画データのフレームを1ピクチャとして記録する場合は「I Frame」を選択します。通常は、「IBBP」を選択してください。

④動きベクター

動きベクターを検出する範囲を指定します。大きな値を指定するほど、動きの激しいシーンでの画質が向上しますがCPUへの負荷が高くなります。

⑤フレームレート

1秒間に描画するフレーム数を指定します。

⑥画像サイズ

録画データを記録するときの、1画面あたりのピクセル数を指定します。ピクセル数が大きいほど解像度が高くなりますが、データサイズも大きくなります。

⑦アスペクト比

録画データに記録するアスペクト比を選択します。映像のアスペクト比に合わせてください。

⑧スタンダード

テレビジョン方式の設定です。[NTSC]を選択します。

■ オーディオについて

録画時の音声の詳細設定を行います。(SW-MPEG設定の「画質」で「マニュアル設定」を選択していない場合、設定できません。)



①音質

サンプリングレートではオーディオ信号の標準化周波数を設定します。オーディオビットレートでは録画データの音声の圧縮サイズを設定します。

②形式

録画データの音声の圧縮サイズを設定します。

③チャンネル

録画データのチャンネル形式を設定します。

④品質

オーディオのエンコードにおける品質を指定します。高音質を指定するほどCPUへの負荷が高くなります。



[ビデオ]タブの設定の詳細内容については97ページをご覧ください。



[オーディオ]タブ設定の詳細内容については、「各設定項目について」の[オーディオ]タブ102ページをご覧ください。



「SW-MPEG設定」61ページのビデオ形式でMPEG1を選択した場合、設定可能な項目が異なります。

■ ファイル拡張子について

録画時のファイル拡張子を設定します。



①MPEG1

システム、ビデオ、オーディオの拡張子を設定します。

②MPEG2

プログラム、ビデオ、オーディオの拡張子を設定します。

■ DVD再生について

DVD再生時の設定を行います。



① DVDナビゲータ選択

DVDナビゲータをInterVideo DVDナビゲータまたはMicrosoft DVDナビゲータから選択します。

② 優先するDVDドライブレター

DVD再生時に優先的にDVDボリュームを検索するドライブを指定します。

③ DVD Videoの自動再生を有効にする

DVDモードへの切替、またはFEATHER-X本体のイジェクト/クローズボタンを使用した場合に自動的に再生を開始します。

■ パネルデザインについて

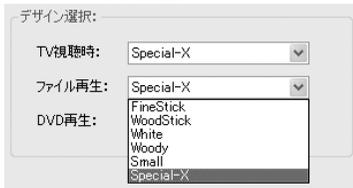
TV視聴時、ファイル再生、DVD再生のFEATHER-Xのデザインを設定します。

① テレビ視聴時



「Special-X」、「FineStick」、「Small」、
「White」、「WoodStick」、「Woody」から選
択します。

② ファイル再生



「Special-X」、「FineStick」、「Small」、
「White」、「WoodStick」、「Woody」から選
択します。

③ DVD再生



「Special-X」、「FineStick」、「Small」、
「White」、「WoodStick」、「Woody」から選
択します。

3-1
いろいろな設定を変更する



Woody



Special-X



White



WoodStick



FineStick

■ ファイル関連付けについて

FEATHER-Xと関連付けるファイルの拡張子を選択し、チェックボックスにチェックを付けます。



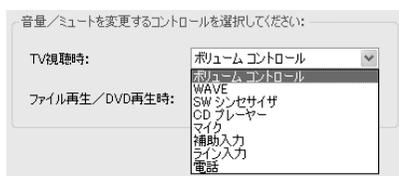
■ 音声／ミュート

音量／ミュートを変更するコントロール、およびOSTV15ボードのLINE OUT端子に接続しているコントロールを選択します。

※ボリュームコントロールを選択すると、すべての入力ラインに対して音の調節を行います。



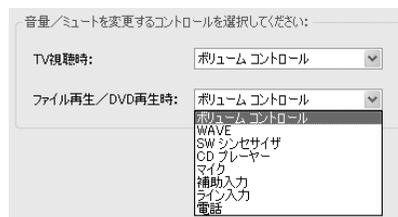
①TV視聴時



TV視聴時に音量／ミュートを変更するコントロールを選択します。

※お使いのサウンドカードによって選択できる項目が異なります。

②ファイル再生／DVD再生時



ファイル再生／DVD再生時に音量／ミュートを変更するコントロールを選択します。

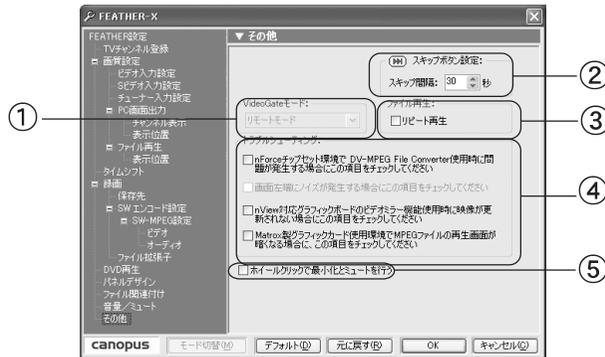
※お使いのサウンドカードによって選択できる項目が異なります。

③LINE OUT 端子を接続している
コントロールを指定してく
ださい

QSTV15ボードのLINE OUT端子に接続し
ているコントロールを選択します。

■その他

FEATHER-Xのその他の内容についての設定です。



①VideoGateモード

『VideoGate1000』とオプションのCRM-1がある場合のみ使用できます。QSTV15で録画したファイルの再生やQSTV15によるテレビ視聴をテレビ画面で行うことができます。従来モードとリモートモードがあり、リモートモードではFEATHER-Xの操作をCRM-1で行います。

②スキップボタン設定

タイムシフト、追っかけ再生、およびファイル再生時のスキップ間隔を設定します。

③ファイル再生

チェックすることにより、ファイル再生時にリピート再生を行います。

④トラブルシューティング

必要に応じてチェックします。

⑤ホイールクリックで最小化とミュート

ご使用のマウスがホイール機能を持っている場合は、ホイールクリックでウィンドウの最小化と音量のミュートが行えます。

3-1
いろいろな設定を変更する



第4章

Media Library を使おう

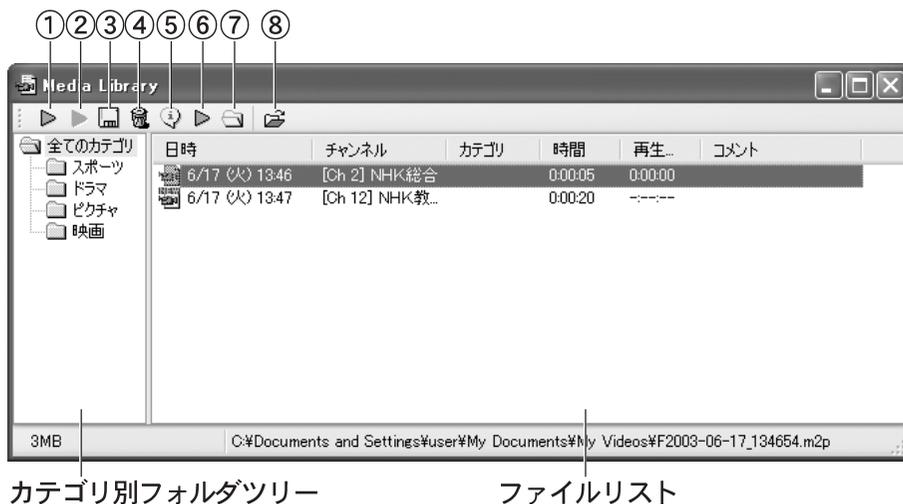
この章では、録画したテレビ番組やキャプチャしたビデオ画像をカテゴリ別に分類したり、他の動画フォーマットに変換したりする操作について説明します。

4-1 Media Libraryについて

Media Libraryは録画したテレビ番組やキャプチャしたビデオ画像をカテゴリ別に分類したり、他の動画フォーマットに変換したりする管理ソフトです。お気に入りのファイルをMedia Libraryに登録しておけば、わざわざ探す手間も省け、すぐに画像を視聴できます。

「Media Library」ウィンドウ

『すべてのカテゴリ』には、FEATHER-Xを使用して録画されたファイルが登録されています。これらのファイルは『スポーツ』『ドラマ』などのカテゴリ別フォルダに分類できます。また、必要に応じてカテゴリ別フォルダを追加したり、フォルダ名を変更したりできます。



ファイルリストで表示されているアイコンの意味は以下のとおりです。



録画後まだ再生されていないファイルを示します。



再生されたファイルを示します。青色のアイコンはソフトウェアエンコード済みのファイルです。

①再生ボタン

選んだファイルを再生します。

③別名で保存ボタン

選んだファイルを別名で保存します。

②続きを再生ボタン

再生を一時停止したファイルをその場所から再生します。

④削除ボタン

選んだカテゴリ別フォルダまたはファイルをMedia Libraryから削除します。

⑤プロパティボタン

選んだファイルのプロパティを表示します。

⑥X-TransCoderボタン

X-TransCoder2(DivX/wmvとFEATHER-Xの連携ユーティリティ)を起動します。

⑦フォルダを開くボタン

選択したファイルが保存されているフォルダを開きます。

⑧ファイルの追加ボタン

任意の場所にあるファイルをMedia Libraryに追加登録します。



ファイルの表示されているエリアを選んで右クリックすると、次のようなメニューが表示されます。

- | | |
|-------|-----------------|
| ① | 再生(P) |
| ② | 続きを再生(R) |
| ③ | 別名で保存(A)... |
| ④ | 削除(D) |
| ----- | |
| ⑤ | コメントの編集(C) |
| ----- | |
| ⑥ | プロパティ(O)... |
| ----- | |
| ⑦ | X-TransCoder... |
| ⑧ | 変換中止(S) |

①再生

選んだファイルを再生します。

②続きを再生

再生を一時停止したファイルをその場所から再生します。

③別名で保存

選んだファイルを別名で保存します。

④削除

選んだカテゴリフォルダまたはファイルをMedia Libraryから削除します。

⑤コメントの編集

選んだファイルのコメントを編集します。

⑥プロパティ

選んだファイルのプロパティを表示します。

⑦X-TransCoder

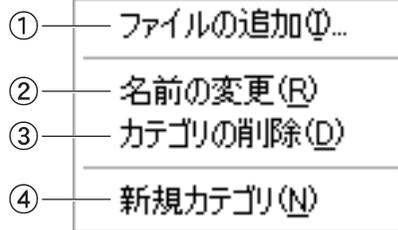
X-TransCoder2(DivX/wmvとFEATHER-Xの連携ユーティリティ)を起動します。

⑧変換中止

ファイル変換の処理を中止します。



カテゴリ別フォルダを選んで右クリックすると、次のようなメニューが表示されます。



①ファイルの追加

選んだカテゴリ別フォルダに、任意の場所にあるファイルを追加登録します。

②名前の変更

選んだカテゴリ別フォルダの名前を変更します。
※『すべてのカテゴリ』では選択できません。

③カテゴリの削除

選んだカテゴリ別フォルダを削除します。
※『すべてのカテゴリ』では選択できません。

④新規カテゴリ

新しいカテゴリ別フォルダを追加します。

4-2 Media Libraryでファイルを管理する

Media Libraryでファイルを分類する

『すべてのカテゴリ』にある録画したテレビ映像をカテゴリ別に分類します。

- 1 FEATHER-X操作パネルのR1ボタンをクリックします。
→ 「Media Library」ウィンドウが開きます。



- 2 ファイルを選び、カテゴリ別フォルダにドラッグします。
→ 選んだファイルはカテゴリ別フォルダに移動します。



任意の場所にあるファイルをMedia Libraryに追加登録する

キャプチャしたビデオ画像などの保存場所を指定してMedia Libraryに登録します。

- 1 FEATHER-X操作パネルのR1ボタンをクリックします。
→ 「Media Library」ウィンドウが開きます。



- 2 ファイルの追加ボタンをクリックします。
→ 「Import media files」ダイアログが表示されます。



3

Media Libraryに追加登録するファイルを選び、[開く]ボタンをクリックします。

→ 選んだファイルがMedia Libraryに追加されます。

※ 追加したファイルのアイコンには「NEW」と表示されています。一度再生すると表示は消えます。



分類するカテゴリ別フォルダを開いてからこの操作をすると、そのままファイルを分類して登録できます。

Media Libraryからファイルを再生する

1

FEATHER-X操作パネルのR1ボタンをクリックします。

→ 「Media Library」ウィンドウが開きます。

**2**

再生するファイルをダブルクリックします。

→ ファイルの再生を開始します。



再生ボタンをクリックするか、ファイルを選んで右クリックして表示されるメニューから「再生」を選択してもファイルを再生できます。

3

再生を終了するときにはFEATHER-X操作パネルの停止ボタンをクリックします。

Media Libraryからカテゴリ別フォルダやファイルを削除する

1

「Media Library」ウィンドウから削除するカテゴリ別フォルダあるいはファイルを選択します。



2

削除ボタンをクリックします。

3

【カテゴリ別フォルダを選んだとき】
[はい]ボタンをクリックします。

→ 選んだカテゴリ別フォルダがMedia Libraryから削除されます。

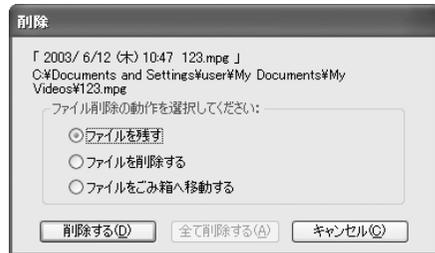


【ファイルを選んだとき】

「削除」ダイアログが表示されます。

以下のオプションから操作を選択できます。

- ・「ファイルを残す」
登録したファイルをMedia Libraryから削除しますが、元のファイルは削除しません。
- ・「ファイルを削除する」
登録したファイルをMedia Libraryから削除するとともに、元のファイルも削除します。
- ・「ファイルをごみ箱へ移動する」
登録したファイルをMedia Libraryから削除し、元のファイルをごみ箱に移動します。



オプションを選び、[削除する]ボタンをクリックします。

→ 選んだファイルがMedia Libraryから削除されます。

4-2

Media Libraryでファイルを管理する

4-3 MPEG ファイルを高圧縮で変換する

DivX形式とWMV形式

DivX形式とWMV形式は、ともに画質を高品位に保ちながら大幅に動画を圧縮できる形式です。これらの形式にファイルを変換するとディスクの保存スペースを節約できます。以下に説明する「X-TransCoder2」は、高圧縮フォーマット (DivX 形式またはWMV 形式) とFEATHER-Xの連携ユーティリティです。

「X-TransCoder2」ウィンドウ



トランスコードファイルリスト

入力ファイル名やビデオ・オーディオのコーデック設定、出力ファイル、コーデックの状態が表示されます。

トランスコード設定

選択されているファイルのトランスコード設定が表示されます。

トランスコード情報

変換している映像ファイルの長さや、予測される所要時間など、トランスコード情報が表示されます。

【変換開始】ボタン

トランスコードを開始します。

【一時停止】ボタン

トランスコードを一時停止します。

【変換中止】ボタン

トランスコードを中止します。

【ファイルを追加】ボタン

トランスコードファイルリストにファイルを追加します。

【コーデック設定】ボタン

「コーデック設定」ダイアログを表示します (79ページ参照)。

【オプション設定】ボタン

「オプション設定」ダイアログを表示します (88ページ参照)。

■ 「コーデック設定」ダイアログ

ビデオ・オーディオのコーデックを選択します。

選択したコーデックにより、[詳細設定] ボタンで表示される設定項目が異なります。



プリセット

選択したコーデックに応じてプリセットを選択します。

標準設定として記憶する

設定した内容を標準設定として保存できます。

[詳細設定] ボタン

「コーデックの詳細設定」ダイアログが表示されます (80ページ参照)。



「任意のコーデックを選択する」で設定して行なわれた変換は、サポート対象外となります。

■ 「コーデックの詳細設定」ダイアログ

- 「コーデック設定」ダイアログで「DivX+MP3」を選択した場合

[DivX設定]タブ



- **プロファイルを使用する**
チェックを入れると、用途に応じたエンコードモードを選択できます。
- **方式**
エンコード方式を選択します。
- **平均ビットレート**
エンコード時の平均ビットレートを、スライドバーの移動またはボックスに直接数値を入力することにより指定します。
- **品質**
エンコードを行う際の画質をスライドバーの移動またはボックスに直接数値を入力することにより指定します。
- **ビットレート変調**
エンコード方式で可変ビットレート(平均)2パスを選択した場合、ビットレートの変調をスライドバーの移動、またはボックスへの数値入力により指定します。
- **優先度**
画質、速度の優先度をスライドバーの移動により指定します。
- **高度な設定を使用する**
チェックを入れると、[DivX拡張設定]タブが表示されます(81ページ参照)。

[DivX 拡張設定]タブ



- **ビデオサイズを変更する**
元のソースデータから解像度、画質を変更して出力します。
- **クロップを使用する**
出力する動画をカットする場合に数値を指定します。
- **双方向予測を使用**
- **クォーターピクセルを使用**
- **GMCを使用**
圧縮時に使用するDivXのツールです。
使用するにはチェックを入れます。
- **最大キーフレーム間隔**
キーフレームの間隔を入力します。
- **プリプロセスを有効にする**
チェックを入れると、スライダの移動により、ソースデータのノイズやゴーストを前処理できます。
- **シーン変化の検出感度**
キーフレームの挿入間隔をスライダの移動、または数値の入力により指定します。
- **サイコビジュアル機能の強化**
ソースデータのエフェクトを補完する場合に、「早い」または「遅い」から選択します。
- **インターレース設定**
ソースデータのインターレース解除に関する設定を行います。

[MP3設定]タブ



- **周波数**

オーディオ信号の標準化周波数を指定します。

- **ビットレート**

オーディオ圧縮後のデータ量を、1秒あたりのビット量で指定します。

- **チャンネル**

録画データのチャンネル形式を設定します。

- **品質**

オーディオの品質を選択します。

- 「コーデック設定」ダイアログで「Window Media Video/Audio」を選択した場合

[WMV設定]タブ



- 方式**
 ビデオデータのエンコード方式を選択します。
- コーデック**
 コーデックソフトのバージョンを選択します。
- ビットレート**
 ビデオデータのビット量を、スライダーの移動、またはボックスへの数値の入力により指定します。
- 品質**
 エンコードを行う際の画質を、スライダーの移動、またはボックスへの数値の入力により指定します。
- 高度な設定を使用する。**
 チェックを入れると、[WMV拡張設定]タブが表示されます(84ページ参照)。

[WMV拡張設定]タブ



• ビデオサイズ

元のソースデータから解像度を変更して出力する場合に、サイズを指定します。

• フレームレート

ソースデータのフレームレートを変更する場合に、1秒あたりのフレームレートを指定します。

• キーフレーム間隔

キーフレームを配置する間隔を指定します。

• 滑らかさ

エンコードを行う際の画質を、スライダーの移動、またはボックスへの数値の入力により指定します。

• 優先度

画質と速度の優先度を、スライダーの移動により指定します。

• バッファサイズ

ビデオデータのバッファサイズを設定します。

[WMA設定]タブ



• 方式

オーディオデータのエンコード方式を選択します。

• コーデック

コーデックソフトのバージョンを選択します。

• フォーマット

オーディオデータのフォーマットを選択します。

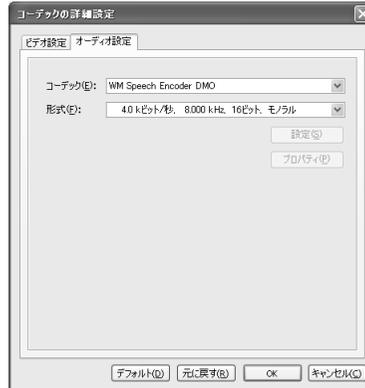
- 「コーデック設定」ダイアログで「任意のコーデックを選択する」を選択した場合
※ここでの設定で行なわれた変換は、サポート対象外です。

[ビデオ設定]タブ



- **コーデック**
変換に使用するビデオコーデックを指定します。
- **詳細設定**
指定したコーデックにより、エンコード品質やキーフレーム間隔などの詳細を設定します。
- **[設定]ボタン**
指定したコーデックにより、「設定」ダイアログが表示されます。
- **[バージョン情報]ボタン**
指定したコーデックにより、バージョン情報が表示されます。
- **[プロパティ]ボタン**
指定したコーデックにより、プロパティダイアログが表示されます。

[オーディオ設定]タブ



- **コーデック**
変換に使用するオーディオコーデックを指定します。
- **形式**
オーディオデータのエンコード形式を選択します。
- **[設定]ボタン**
指定したコーデックにより、「設定」ダイアログが表示されます。
- **[プロパティ]ボタン**
指定したコーデックにより、プロパティダイアログが表示されます。

■ 「オプション設定」ダイアログ

[全般]タブ



- ・タスクの優先度

トランスコードの優先度を選択します。

- ・変換終了後、Windowsの状態を変更する

トランスコード終了後のWindowsの状態を選択します。

[ファイル/保存先]タブ



- ・変換後ファイルの保存先

「任意のフォルダ」を選択した場合は、[参照]ボタンから保存フォルダを指定します。

- ・変換後のファイル名に情報を付加する。

付加したい情報にチェックを入れます。
また、ファイル名の変更もできます。

[コーデック]タブ



「コーデック設定」ダイアログ参照(79ページ)

[FEATHER連携]タブ



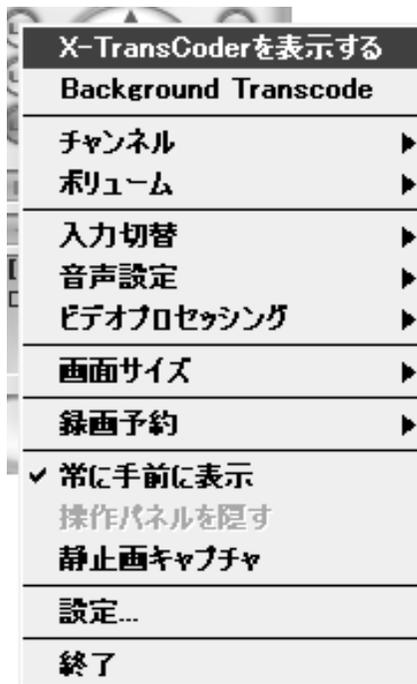
- FEATHERでの録画時に自動でトランスコードを行う
チェックを入れると、「トランスコードファイルリストに追加するタイミング」が選択可能になります。
- トランスコードファイルリストに追加するタイミング
録画時に自動でトランスコードを行う場合、ファイルをトランスコードファイルリストに追加する時期を選択します。
- FEATHERが録画を行っている間は、トランスコードを行わない。
OSTV15では使用しません。
- FEATHERが再生中の場合は、トランスコードを行わない。
FEATHERが再生中、トランスコードを行わない場合にチェックを入れます。

X-TransCoder 2を起動する

X-TransCoder2を使用して、録画したテレビ番組をDivX形式に変換します。

1

FEATHER-X操作パネルのL1ボタンをクリックし、表示されるメニューから「設定」を選択して、「X-TransCoder2」ウィンドウを表示させます。



2

[ファイルを追加]ボタンをクリックし、「ファイルを開く」ダイアログから変換するファイルを選択します。



3

トランスコードファイルリストに表示されているファイルを選択します。



4

[コーデック設定]ボタンから変換に必要な設定を行います（79ページ参照）。

5

[変換開始]ボタンをクリックします。

※変換中に[変換中止]ボタンをクリックすると、ファイル変換処理を中止します。変換を中止するまでのファイルが作成されます。



6

変換完了後、[閉じる]ボタンをクリックします。

→「X-TransCoder2」ウィンドウを閉じます。



「X-TransCoder2」ウィンドウから、ファイルリストのファイルを選んで右クリックすると、次のようなメニューが表示されます。

①	ファイルを追加する(A)	Ctrl-F
②	リストから削除する(D)	DEL
③	コーデックの設定を行う(S)	Ctrl-E
④	出力先を変更する(F)	F2
⑤	出力ファイル名に情報を付加する(O)	
⑥	出力先のフォルダを開く(Q)	Ctrl-O
⑦	出力ファイルを再生する(P)	Ctrl-P
⑧	プロパティを開く(R)	Alt-Enter

①ファイルを追加する

ファイルリストに変換するファイルを追加します。

②リストから削除する

ファイルリストで選んだファイルを削除します。

③コーデックの設定を行う

コーデック設定ダイアログが表示され、変換の設定を行います。

④出力先を変更する。

「名前を付けて保存」ダイアログが表示され、出力先を指定します。

⑤出力ファイル名に情報を付加する

付加したい情報にチェックを入れます。

⑥出力先のフォルダを開く

ファイルが出力されるフォルダを開きます。

⑦出力ファイルを再生する

出力されたファイルを再生します。

⑧プロパティを開く

ファイルリストで選んだファイルのプロパティダイアログが表示されます。

変換を行う<追っかけ変換(Background Transcode)>

テレビ番組録画直後にファイルの圧縮変換を行うことができます。

1

『2-3 録画する』（21ページ参照）の手順1～4を行います。

2

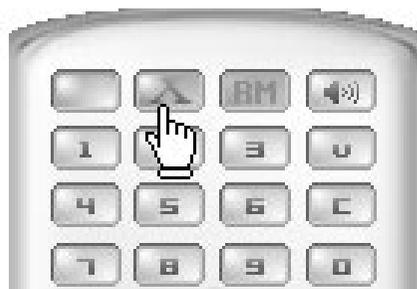
FEATHER-X操作パネルのXボタンをクリックします。

→X-TransCoder2が起動し、変換を開始します。

※X-TransCoder2は、タスクバーに最小化されています。

※変換を中止する場合には、再度Xボタンをクリックします。変換中止を確認するダイアログが表示されます。

変換を中止する場合は「中止」を選択します。そのまま変換を続ける場合は「継続」を選択します。



Background Transcodingを中止しますか？

中止

継続



変換を中止すると、中止した時点までのファイルが作成されます。

3

停止ボタンをクリックします。

→録画を終了します。

→X-TransCoder2が終了し、Media Libraryのファイルリストには、変換元のファイル（MPEGファイル）と変換後のファイル（DivXファイルまたはWindows Media ファイル）が作成されます。



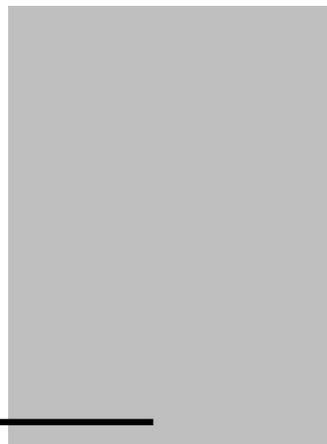
4-3

MPEGファイルを高圧縮で変換する



第5章

付録



5-1 各設定項目をもっと詳しく

MPEG1、MPEG2、ストリームについて

QSTV15は、ビデオ信号とオーディオ信号の両方をエンコードする機能があります。ビデオ信号のエンコードは、MPEG1 (ISO/IEC 11172-2) またはMPEG2 (ISO/IEC 13818-2) のいずれかが選択できます。

オーディオ信号のエンコードはMPEGオーディオ (ISO/IEC 11172-3) 規格に基づいています。オーディオは圧縮せずにPCMデータによる記録も可能です。

ビデオやオーディオのそれぞれをエンコードしたデータをエレメンタリストリームと呼びます。QSTV15は、ビデオまたはオーディオのいずれか、または両方をエンコードしたファイルを作成できます。

ビデオ信号とオーディオ信号を同時に記録する場合は、それらが1つのデータにまとまっていることが理想です。そのためにQSTV15は、ビデオのエレメンタリストリームとオーディオのエレメンタリストリームとを多重化して、1つのストリームにまとめることができます。多重化の方式は、ビデオがMPEG1の場合にはシステムストリーム (ISO/IEC 11172-1) を、ビデオがMPEG2の場合にはプログラムストリーム (ISO/IEC 13818-3) を作成できます。

Video CDの作成について

Video CDは、ビデオとオーディオの両方を記録でき、システムストリームの形式で記録されています (Video CDにはMPEG1 ビデオが使用されています)。したがって、QSTV15でエンコードしたデータをVideo CDを作成するための映像素材として使用する場合は、システムストリームとしてエンコードします。ただし、Video CDの規格は、一般的なシステムストリームに比べてよりせまい範囲に条件を限定しているので、QSTV15では「Video CD」という選択ボタンを別に設けて、その条件に合ったシステムストリームが出力できるようになっています。こうして出力したファイルを、市販のVideo CD作成ソフトウェアで読み込んでVideo CDを作成できます。

QSTV15でVideo CDを選択した場合、次の形式のファイルが作成されます。

項目	値
MPEGの種類	MPEG1
ビデオ入力サイズ	NTSC 352×240、PAL 352×288
ビデオビットレート	1150000bps
CBR/VBR	CBR
オーディオビットレート	224000bps
サンプリングレート	44100Hz
オーディオレイヤ	レイヤ2
多重化	システムストリーム
バックサイズ	2324バイト
SCRの初期化	0

Video CDを作成するときは、上記のデータ形式を読み込むことができるVideo CD作成ソフトウェアをご使用ください。

DVD-Videoの作成について

DVD-Videoは、プログラムストリームの形式で記録されています(DVD-VideoにはMPEG2ビデオが使用されています)。DVDのオーサリングを行うソフトウェアがどのような形式のMPEGデータを必要とするかは、オーサリングソフトウェアによって異なります。エレメンタリストリームを読みこんで、オーサリングソフトウェアの内部でプログラムストリームに多重化する場合が一般的です。その場合、オーディオデータは、MPEGオーディオのエレメンタリストリーム、または非圧縮のPCMデータとして、ビデオとは別のファイルとして読み込まれます。QSTV15は、エンコードしたデータをDVD-Videoを作成するための映像素材として使用できるように、ビデオとオーディオのエレメンタリストリームや、オーディオのPCM形式による記録をサポートしています。

■[ビデオ]タブ

「FEATHER-X」ダイアログの[ビデオ]タブの各項目について詳細内容を説明します。



ビデオタブは、「FEATHER-X」ダイアログの[SW-MPEG設定]タブの画質欄で「マニュアル設定」を選択した場合にのみ設定できます。

プロファイルとレベル



MPEG2の規格はパラメータの許容範囲が非常に広いいため、個々の製品がサポートする範囲がまちまちになってしまうと混乱が生じます。そのために、いくつかの段階に分けて目安を設けたものが、プロファイルとレベルです。

QSTV15で使用できるのは「MP@ML」、「MP@LL」、「SP@ML」の3種類で、最も段階が高いのが「MP@ML」です。スタンダードTV(HDTVではない通常のTVという意味)向けでは、「MP@ML」が標準です。現在市販されているMPEG2デコーダは、ほとんどが「MP@ML」に対応していますので、特別な理由がない限り、MPEG2では「MP@ML」を使用してください。

MPEG1の場合は、プロファイルやレベルの規定がないので、選択できません。

ビデオビットレート

ビットレート:

CBR VBR

平均(A) ▼ 3000 Kbps

ビデオデータのビット量を指定します。ビットレートを上げると画質は向上しますが、ファイルサイズは大きくなります。数値は、1秒間の録画に必要なデータサイズ(ビット単位)です。バイト数に換算するには、8で割ってください。例えば「8,000,000bps」(=8Mbps)と指定すると、1秒あたり8Mビット、すなわち1Mバイトですから、1分間の録画には1Mバイト×60秒=60Mバイト以上の空きディスク容量が必要になります(オーディオも同時に記録する場合は、そのデータ量も加算する必要があります)。

データ量と画質のバランスから、適切であろうと考えられるおおよその目安は、以下の通りです。

●画像サイズが720×480の場合

6～12Mbpsが適切です。4Mbpsでは少し画質が悪いと感じられ、8Mbps以上にしても、画質にそれほど大きな変化はありません。15MbpsがMPEG2(MP@ML)の規格上の上限値です。

●画像サイズが352×480の場合

3～4Mbpsが適切です。

さらにビットレートを上げる(画質を上げたい)場合は、720×480を使用してください。

●画像サイズが352×240の場合

MPEG1の場合は、1.5～1.8Mbpsが適切です。1.8MbpsがMPEG1の規格上の上限値です。Video CDの規格では1.15Mbpsが規格上の上限値となっていますので、Video CDを選択した場合はその値に固定されます。

MPEG2をこの画像サイズで使用する場合は、2～3Mbpsくらいが適切です。

CBR

CBRはビデオのデータ量をほぼ一定に保ちます(CBR:Constant Bit Rate)。MPEGは、急にシーンが変わったり、細かいパターンが多く含まれる映像などは圧縮しにくい、という性質があります。CBRでは、そのような場面でも一定のデータ量まで圧縮します。

GOPパターン(IBBP、I Frame)

ビデオ映像は、多くの場合、時間の経過と共に画像が少しずつ変化していきます。MPEGではそのことを利用し、前後の画像内によく似た部分があれば、その情報を使用することで、すべてのデータをそのまま記録しないで済むように考えられています。したがって、それまでの画像がなければ、次の画像は構成できません。ただ、何フレームかに1枚の割合で、前後の画像の情報がなくとも、独立して画像が再現できる画像が含まれています。これをIピクチャと呼びます。これに対し、時間的に前の画像の情報を利用して少ないデータから再現できるように記録されている画像をPピクチャと呼びます。また、時間的に前の画像と、時間的に後の画像の両方の情報を利用して、さらに少ないデータから再現できるように記録された画像もあり、これをBピクチャと呼びます。「IBBP」を選択すると、上記のしくみを利用して、データ量を少なくしつつ、画質を保つようにします。通常MPEGは、この方式で記録されてます。通常は、「IBBP」を選択してください。ただし、「IBBP」は、前後の画像の情報を使用するため、圧縮データの途中で切り離して他の部分のデータに接続することができないので、記録した画像の編集には向きません。「I frame」は、すべてのフレームをIピクチャとして記録します(I frame only)ので、編集が容易にできます。I frame only のMPEGファイルを編集できるソフトウェアをご使用になる場合は、「I frame」を選択してください。ただし、「I frame」は、同程度の画質を維持するためには「IBBP」に比べてデータ量を大きくする必要があります。最大ビットレートはMPEGの規定上、15Mbpsが上限ですので、データ量を大きくして高い画質を得ようとしても、できないことがあります。

画像サイズ

画像サイズ:

ビデオをエンコードする際の1画面を構成するピクセル数です。大きいほど解像度が高くなりますが、データ量は大きくなります。

スタンダード(NTSC、PAL)

スタンダード: NTSC(N) PAL(P)

NTSC : 日本、北米などで使用されているテレビジョン方式です。

PAL : ヨーロッパ・中国などで使用されているテレビジョン方式です。

QSTV15は、「NTSC」のみ使用できます。

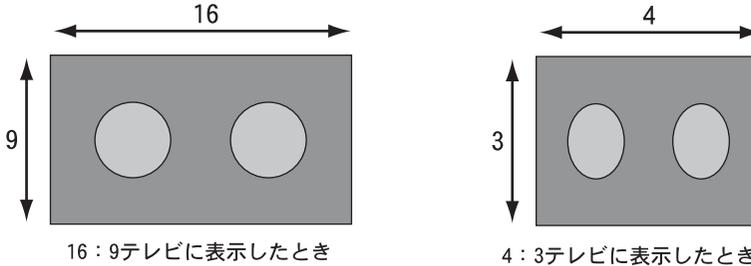
アスペクト比(16 : 9、4 : 3)

アスペクト比: 4 : 3 16 : 9

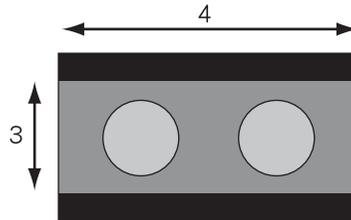
現在ビデオ画像のアスペクト比には、4 : 3または16 : 9が使用されています。

どちらのビデオを入力するかを設定してください。

ここでの16 : 9のビデオとは、TVに表示した時に、下図のように表示されるビデオ信号のことを指します(2つの円は、真円を撮影したものを表しています)。



4 : 3のTVに次のように表示されるビデオは、16 : 9の映像を4 : 3TV用に変換したものですので、このようなビデオはビデオ全体としてはあくまで4 : 3です。



16 : 9の映像の上下に黒い帯状の部分を入れて、4 : 3テレビ用にしたもの

アスペクト比の設定にかかわらず、エンコードされる1ラインあたりのピクセル数は変わりません。あくまで720ドットです。エンコード時の動作の違いは、作られるMPEGストリーム内のヘッダーに、16 : 9の情報が入るか、4 : 3の情報が入るかだけです。

■[オーディオ]タブ

「FEATHER-X」ダイアログの[オーディオ]タブの各項目について詳細内容を説明します。



[オーディオ]タブは、「FEATHER-X」ダイアログの[SW-MPEG設定]タブの画質欄で「マニュアル設定」を選択した場合にのみ設定できます。

サンプリングレート

音質:

サンプリングレート(L):	48000	▼	Hz
オーディオビットレート(B):	224	▼	Kbps

オーディオ信号の標本化周波数を指定します。「32kHz (32000Hz)」、「44.1kHz (44100Hz)」、「48kHz (48000Hz)」から選択できます。44.1kHzはオーディオCDやVideo CDで採用されている値、48kHzはDVDで採用されている値です。

ビデオがMPEG1の場合には44.1kHz、ビデオがMPEG2の場合には48kHzのオーディオと組み合わせるのが適切です。

32kHzは、特にデータ量を少なくしたい場合に選択してください。

オーディオビットレート

音質:

サンプリングレート(L):	48000	▼	Hz
オーディオビットレート(B):	224	▼	Kbps

オーディオをMPEGオーディオ規格で圧縮する場合の、圧縮後のデータ量を1秒あたりのビット量で指定します。

音質とデータ量の兼ね合いから、通常「192」、「224」、「256」のいずれかを選択してください。

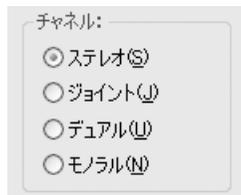
 形式



- Layer 2

MPEGオーディオのレイヤ2規格に基づいて、オーディオ信号を圧縮します。チャンネル構成については、次項の「チャンネル」で指定します。

 チャンネル



- ステレオ

LチャンネルとRチャンネルの信号にある程度の相関がある場合に、効率のよいオーディオエンコードを行います。音楽などのステレオ信号をエンコードする場合にご使用ください。

通常の音楽などの信号は、LチャンネルとRチャンネルの信号が、かなり似ています。その場合には、各チャンネルを独立してエンコードするのではなく、似通った部分があるという性質を活用してエンコードした方が、より高品質の圧縮が可能です。この設定では、そのような圧縮を行います。

- ジョイントステレオ

LチャンネルとRチャンネルの信号の相関がより強い場合に使用します。

- デュアル

LチャンネルとRチャンネルの信号に相関がほとんどない場合に使用します。各チャンネルにまったく別の音を記録する場合などにご使用ください。

- モノラル

1チャンネルだけのオーディオ信号を記録します。Lチャンネルの入力端子に入力された信号だけが記録されます。

品質

品質:

- 高(H)
- 標準(N)
- 中(M)
- 低(L)

音声の品質を選択できます。